
バカなオタクとテストと召喚獣

陰真烈臥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカなオタクとテストと召喚獣

【Nコード】

N7551V

【作者名】

陰真烈臥

【あらすじ】

俺は二次元があれば
十分幸せだ……………。

そう学校なんて価値のないもの。

？

バカテスに

乱入した二次元オタク！

カオスな日々をご覧あれ！

第1話「俺と皆とFクラス」(前書き)

みなさんはじめまして、陰真烈臥です。(カゲマレッガ)

「バカテス」を見て

面白い!

と思う方は多いと思います。

自分もそんな作品にできたらと思
います。

どうぞよろしく願います。

第1話「俺と皆とFクラス」

薄暗い部屋の中。

彼の目の前にはPCが3台。

左にはテレビ

そこに接続されている数々のゲーム機

右の棚には

小説

漫画

ゲームソフト

CD

DVD 等が

ぎっしり詰まっている。

ガラスケースには

キャラクターフィギュアがずらり、

部屋の壁にはポスターが貼り付けてあり、

ベッドには

たくさん

アニメ ゲームキャラの

抱き枕にクッション

が溢れている。

側にある冷蔵庫の中には 大量の炭酸飲料だけがはいっている。

そんな部屋で暮らす彼の名前は

式次＝現祐

(ニジ＝ゲンユウ)。

今までの説明で理解できるように
完全二次元オタクだ。

そんな彼でも

一応 学校には行っている。

文月学園。

世間では珍しい

『試験召喚システム』

をとり入れている。

果たして勉強が全くでオタクな彼は学園生活を送れるのか
少し 覗いてみよう。

ガラガラッ…。

入学式の後

皆 自分の教室に入っていく。

現祐の成績でも入学できたのに驚きだが
それに相応しいクラスが
しっかり存在する。

それがFクラス

この学園は

成績順にA〜Fの教室が割り当てられる。

教室の豪華さや清潔さ

もAに近いほどよく、

Fが最低だ。

Fクラス。

チヨーク、黒板消しなどの消耗品すらまともに支給されず、足の折れた教卓や机、腐った畳、綿の殆ど入っていない座布団での授業を強いられている。

中にいるメンバーも変わり者ばかりだ

「あつ！現祐もFクラスだったんだね。」

彼（以後、俺）

に話しかけてきたのは

吉井明久。

鉛筆を転がして入学した最強（？）な奴だ。とにかくバカで
学校から『観察処分者』という称号を得ている。だがとてもいい奴

で現祐とも仲がいい。

「……………」

「現祐！無視シナイデ〜。」

「今いいところ」

「ああごめん。」

「おはよう。」

次にそう言ったのは

土屋庚太。

「おはようムッツリーニ。」

（『ムッツリーニ』とは彼のあだ名で『寡黙なる性識者』を意味する）

「これ頼まれていたポスター。ちゃんと限定版」

土屋庚太はよく俺の頼みを聞き入れて

予定が詰まっているため行けなかったイベントの商品を手に入れてきてくれる。

だが今の俺はゲーム中

しかも

（いいところ）

「どうした？」

「……………」

「これは……?」

「ああ今いいところなんだって!」

そう言っつて俺は

ムツッリーニに今の

PSPの画面

(ヒロインの水着姿)

を見せた。

「ぶはっ……………!!」ムツッリーニは鼻血を出して倒れた。

「おい、ムツッリーニ!!」

すぐに明久が土屋に駆け寄る。

「おい!現祐!ムツッリーニに何を……………ぶはっ!!」

そう 言いながら、俺のPSPを見て明久も倒れた。

「だからいいところだっつて言ったのに、」

「全く騒がしいな。」

次に入ってきたのは

坂本雄二。

明久の昔からのダチだ。

続いて

「おつ、知り合いがいて良かったのぉ」

木下秀吉。

とても可愛い女の子

(わしは男じゃ！)に見えて実は男。

たまに男子に告白される。

つと

「ああ悪い。ポスターありがとうな。今度、グラビア写真集やるか

ら。」

イベントシーンが終わった俺は

倒れたムツリーニからポスターを受け取る。

アニメ『ロウきゅーぶ』の智花ちゃんのポスターだ。

やっぱり可愛いなあ。

「全くなんで私がFクラスなのよ。数学はできたのに」

入ってきたのは

島田美波

「ああ美波もFクラスだったんだね」

「なんでかわからないけどね」

「何言ってるんだよ。それは美波が馬鹿だから……ぐはっ」

「私なんだったって？」

力技で明久を締め上げる

「ああ美波、胸板が痛いよぉ〜。」

「私だつてちゃんと胸あるわよ。失礼ね！」

その場に明久は倒れた。

とまあ 騒がしいクラスだが

そこに天使が現れた(？)

「おはようございます。みなさん一年間よろしくお願ひしますね。」

姫路瑞希

(ヒメジミズキ)

さん。

実際Aクラスと誰もが思った人物だが
入学試験当日

体調が悪く、途中退室したため
Fクラスになってしまった。

「姫路さんがFクラスなんて」

「大丈夫ですよ。明久君。私この教室好きですし。体調管理も試験のうちですから。」

「うん……………」

「そんなに落ち込むなら、やるか？」

明久に声をかける坂本雄二。

「やるって何を？」

「試召戦争を…だ。」

その言葉に教室全体が驚いた。

召喚戦争とは

試験召喚戦争の略で

他のクラス（FからEへ等）へと試験召喚で勝負し 下のクラスが上のクラスに勝てれば 教室を入れ替える
といったものだ。

「でも僕達はFクラスなんだよ！」

「大丈夫だ。Fクラスは確かにバカだが、それぞれに異様なまでに得意な科目がある。」

「例えば、ムッツリーニは保健体育ならAクラスにも勝てる実力を
持っている。」

「そうなの！すごいよムッツリーニ。」

「保健体育は人間にとって必須科目。」

「とにかく、こういう奴らをつまぐ利用すれば勝てるかもしれない。
まずは一つ上のEクラスに

宣戦布告だ。明久！」

「なんで僕なの？」

「そつと明久の肩に手を置く雄二」

「何言ってる？お前は俺らの中でも核となる大事な人物だ。頼むぜ。」

「雄二……」

「ありがとう」

「行ってくるよ。」

「うわあ〜ん。ボコボコにされたよお。」

「まあ当然だな。」

「宣戦布告に行った奴は大体そうなる」

「分かってていかせたの！ひどいよ雄二！……」

「それで日にち？」

「無視するなよお。一応来週の月曜日だつて。」

「分かった。」

「さあ皆!!」

「俺たちFクラスの見せてやるつぜ!!」

「ウオウ!!!!」

教室全体が湧き上がった。

こうして

Fクラスの戦いは始まった。

「帰ったら次のギャルゲーしよつと。」

by 現祐

第1話「俺と皆とFクラス」(後書き)

『バカテスト!』

次の文章の()を埋めなさい。

夏目漱石の有名作品は

「吾が輩は()である」
である。

「姫路の解答」

(猫)

簡単でしたね。

「明久の解答」

(食費不足で苦しんでいる哀れな子猫)

最後の一文字だけで結構です。

「現祐の解答」

(可愛いヒロイン達を虜にするナイスガイ)

一度 病院にいつて下さい。

次回!

俺とゲームと男の魂！

これ テストにでます。

第2話「俺とゲームと男の魂」(前書き)

今回の作品には

実在するゲームや

アニメが登場するので

そこから

私の好みもわかってしまいますが

キモくても我慢してあげて下さい。

後書きの

「バカテスト」

もよかったですら

楽しんで見て下さい。

それでは第2話

どうぞ！

第2話「俺とゲームと男の魂」

「これでメインヒロインは全員クリアー。後は隠しキャラ2人か…」

今日もギャルゲーをこなす現祐。

今年から高校2年
だというのに、
ゲーム三昧の日々。

しかし、

今日は学園で試召戦争

(前回の1話で

“召喚戦争”

になってました。

すいません)

のある日。

しかし現祐は

後半だけでたらしい、と雄二から言われたのだ。

「それまでは学校サボってゲームし放題だぜ。はははっ！」

その頃
文月学園では

.....

「雄二、もうすぐ開戦なのに、Eクラスの対策は何もしないの？」

「大丈夫だ。対策は万全だ。」

「前半は美波の数学で戦い、後半は姫路と現祐で潰せば、楽勝だ。」

「でも、対戦中に0点になったら鉄人（西村先生）の鬼の補習があるんだよ！」

「だから大丈夫だって言ってるだろ？
確かに、0点の奴がでないとは言わない。
だが、勝てばEクラスの設備が手に入る。」

「大体、姫路さんともかく、現祐って勉強できたっけ？」

「まあそこはお楽しみについてことで」

「おい長谷川先生捕獲したぞ！」
Fクラスメンバーの
1人が叫ぶ。

「よし！開戦だ！」

長谷川先生は数学教師
つまり

数学の得意な

美波の召喚獣が戦うには

有利なフィールドを

展開してくれる。

「承認します！」

長谷川先生の召喚許可が下りた。

「島田美波いきます！サモン！」

85点。これは

始業式の前に受けた

振り分け試験の結果だ。

「くっ、Fクラスで85点もあるのかよ！」

EクラスはFクラスより賢いが、

力の差は少ない、

つまり美波のような

人材は非常に役立つ

ことになる。

「数学なら負けないんだから！」

召喚獣の強さは
テストの点数に
そのまま表れる。

そのころ

姫路は

振り分け試験が0点

扱いだつたため

開戦後から受けられる回復試験を受けていた。

雄二の指示があるまで

ひたすら点数を稼ぐことができる

姫路には Aクラス並の力がある。

時間無制限の回復試験ならいくらでも点数がとれる。

さてさて

とある家では

「そろそろ学校行くか。 “準備”もできたし、」

現祐が学校に向かっていった。

「私がEクラスの代表よ！」

「90点！」

「私も数学は得意なの。ごめんなさいね。」

島田が押され始めていた。

「ああ雄二！もう限界だよ！美波も点数が減ってるし、」

「大丈夫だ。そろそろ姫路が戻ってくる！」

「あらあなたがFクラスの代表？」

「うわあくん、きちやったよ！」

「ほおEクラス代表がわざわざご苦労なこつた。」

「どうでもいいけど、ようやく終わりみたいね。サモ……」

「明久あああ！」

「な、なによ？」

Eクラス代表は召喚をやめた。

「なんだよ雄二？」

「見せてやれ、お前の本気を。」

「ふっ、なんだ。もう本気だしていいんだね？」

「ああ、今更隠す必要はない。」

卓袱台の上に明久が立つ。

「あなた……まさか！」

「そう僕は“観察処分者”さ。」

「観察処分者にはな、特殊な能力が備わっているんだ。」

「僕の本気見せてあげるよ。サモン！」

「いいわ。圧倒してあげる。サモン！」

数学2点

VS

数学90点

当然結果は

「うはっ……。」

「観察処分者は召喚獣が受けた痛みを体感でき、物体に触ることができる。」

「つまり僕は余計に苦しむだけってこと？」

明久は倒れた。

「あとはあなただけね
Fクラス代表さん。」

その時だった

「代表！Eクラスのメンバーが次々にやられています！」

「なんですって!？」

「さすが姫路だな！」

「みなさん、ごめんなさい！」

数学457点

あっという間に
Eクラス代表のもとまで
やってきた。

……だが

「はあはあはあ」

「姫路さん。大丈夫？」

そう彼女はここまで走るのに全力をだしきった。

召喚獣は強くても

召喚する本人がしっかりしないと

召喚獣は力を発揮できない。

「少し予想外だったけど、戦えないんじゃないわね。」

「いや姫路は予定通りに仕事をしてくれた。」

「なんですって？」

「今だ！現祐！」

そう雄二が叫ぶと

Fクラスメンバーに

連行された技術の教師と

現祐が教室に

入ってきた。

「しよ、承認します！」

フィールドは

数学から技術に切り替わった。

「サモン！」

現祐が叫ぶ。

Eクラス代表

技術67点

現祐

技術765点

「いけ！現祐！」

「お前はPCのことを何も知らないからな。うせる！」

「そんな、700点オーバーって。」

【勝者Fクラス！】

「「やった〜！」」「こうして、

試召戦争はFクラスの勝利に終わった。

しかし

「設備は交換しない。」

「「ええ〜！」」

「なんでだよ！雄二！せつかく勝ったのに。」

「今の内に借りを作っておくのだ。」

「借り？」

「まあその内分かるさ。」

「それにしても、最後に現祐を使うとはねえ〜。」

「そうじゃのお。現祐は勉強はダメだと思っておったが。」

「回復試験を受けられる教室がFクラスから遠かったからな。姫路には現祐が走るルートを確保してもらったのださ。」

「そして、現祐君はお家でPCのことを見直してから学校で回復試験を私と一緒に受けたんですよ。」

「技術限定でな。」

「ちゃんと

株式会社ナムコに

かけて765点をとっておいたぜ。」

「そこは誰も気にしないと思うがのお。」

「あつムツツリーニ。これ約束のグラビア写真集。
俺は表紙から既に
ヤバい写真集を渡した

「ぶはっ……………!!」

「ムツツリーニ!!」

「試召戦争に勝ってもこのクラスは変わらないな。」

「姫路さんごめんね。少しでもましになるはずだったんだけど。」

「いいえ!私このクラス大好きですよ!好きな席に座れますしね。」

「姫路さん……………」

「明久、姫路!ゆっくり話してる暇はない!早く輸血パックを……………」

「「えっ?」」

「ああ!

ムツツリー……………。」

試召戦争は無事に終わったが

このクラスの騒動が終わる日はくるのだろうか……………？

「今日は朝もゲームできたし、帰ったら漫画読んで、
ミクちゃん

（抱き枕 + 妄想）
と寝よつと！」「

b y 現祐

第2話「俺とゲームと男の魂」(後書き)

「バカテスト！」

「問」

シェイクスピアの
生きていた期間を
答えなさい

(姫路の解答)

1564 } 1616

正解です

「人殺し色々」など変わった覚え方もあります。

(明久の解答)

彼はいつまでも作品と共に生き続けると思います。

先生はこの解答嫌いじゃないです。

(現祐の解答)

PSPソフト「初音ミク project DIVA extend」の
発売日は11/10です！

もう一度問題をしっかり読みましょう。
先生もこのゲームは買いたいです。

次回！

「ツンとボカロとロリコン大好き？」

これ テストにです。

第3話「ロリとボカロとツンデレ大好き！」（前書き）

前回の予告のタイトルが間違っていました。すみません。

今回はまったく

バカテスと関係ない話です。すみません。

4話に期待(?)

して下さい。

「謝罪ばかりじゃの。」

by 秀吉

第3話「ロリとボカロとツンデレ大好き！」

「みつくみくにしてあげる！世界中の……」

PSPで

「初音ミク project DIVA 2nd」
をやる現祐。

簡単に言つと音ゲーだが
可愛いらしい

アイドル初音ミクが
踊っていて

なかなか飽きないゲームだ。

現祐は初音ミクが大好きで
先週にプレイ時間が
140時間を超えた。

「よし！クリアー。」

目が疲れてきたので
少し休憩がてらに

アニメ

「ロウきゅーぶ」の

土屋にもらったポスターを眺めることにした。

「はあ、可愛いなあ。智花ちゃん。」

しかし、

そんなまったりした時間を過ごしていると、

いつもやっているチャットルームがなんだか騒がしい。

「ん？なんだなんだ？」

（「灼眼のシャナ？

秋に放送！」

「最高！」

「俺のヘカテー！」

「シャナたん楽しみ！」（

！！！！！！

なん…だっ…と！

灼眼のシャナ3期だと！

アニメ

「灼眼のシャナ」

のシヤナが現祐のお気に入り。

「急がないと！」

現祐はためていた
シヤナの小説を急いで読み始めた。

………

「ふう〜。」

とりあえず1冊読み終わった時だった、

トウルルル…

電話だ。

「あっ！現祐？」

明久だ。

「どうした？」

「これから雄二と美波と秀吉とムツツリー二で水族館に行くことになったんだけど、現祐も一緒にどう？」

はっ、

水族館ならフィーナと行ったわ。

（フィーナとはギャルゲー「夜明け前より瑠璃色な」のヒロインのことであり、作中に水族館に行くイベントがある）

「ごめん。忙しくてな。」

「そっか、じゃあまた明日学校でね。」

「じゃあな。」

「うん。」

友達よりゲームや漫画を優先する現祐にはこのようなやりとりは珍しくない。

現祐は再び、小説を手にとり、読み始めた。

~~~~~

「忙しくて無理だって、現祐。」

「どうせまたゲームしてるんだろ？」

「まあ、いいじゃない、うちらと同じで現祐も楽しんでるんじゃない？」

「ギャルゲーは大事。」

「それじゃあ俺達だけで行くか！」

明久達は水族館に向かった。

~~~~~

小説に疲れた現祐は
シヤナの漫画をよんでいた。

「うわっ！この表紙のシヤナ可愛い！ああ。見とれちゃっわ。」

しかし、
再び、

トウルルル…

電話だ。

「よお現祐。元気にしてる？」

「今はシャナと元気にしてるよ」

「さすが！イイ返事だ！」

こいつは
ヘシナオ・タク
辺奈尾託

昔からよく一緒に
イベントに行ったりギャルゲーを買ったりしている仲だ。

「これからゲーセン行こうと思うんだけど、どう？」

「まったく、いいタイミングで電話しやがって

ずっと座っていた現祐は出かけたかった。

しかし水族館は興味ない。

だが今度はゲーセンだ。

「すぐ行く！」

「さすが現祐！俺も向かうから、駅の改札でな！」

「ああ！」

現祐は時計、携帯、財布を持ち、直ちに駅に向かった。

……………

「はあはあはあ……」

久しぶりに全力疾走した。

「おい現祐！」

向こうに息を切らした託がいる。あいつも走ったみたいだな。

「現祐なら走ると思ったよ」

「お前も走ると思った」

何故って

楽しみだからな

ゲーセン

「とりあえず入るか！」

俺達は12:30頃から4:00までゲーセンで過ごした。

一回100円のゲームで

32回もやり

初音ミクの財布を手に入れた。

だって可愛いから。

現祐はまた

自分の家に戻ってきた。

現祐は明久と同じで

親の都合上、一人暮らしだ。

おかげで毎日オタクライフを満喫している。

今日だけで

シャナ

ミク
智花

と数多くのキャラに

メロメロだったが

現祐はこの程度のオタクではない。

しかし語るとキリがないので、
このあたりでやめておこう。

「バカテス関係なかったな。すいません」

b y 現祐

第3話「ロリとボカロとツンデレ大好き！」（後書き）

バカテスト！

（問）

水素 酸素の他に
空気中に含まれる
成分を答えなさい。

（姫路の解答）

窒素

正解です。簡単ですよね。

（土屋の解答）

鼻血

今日は輸血パック足りましたか？

（明久と現祐の解答）

愛！

詩的な解答をありがとうございます。

次回！

鼻血とロマンと試召戦争！？

これ テストにでます。

第4話「鼻血とロマンと試合戦争!?!」(前書き)

久しぶりの投稿です。

あまり進展はありませんが

よかったですら見て下さい。

第4話「鼻血とロマンと試合戦争!？」

俺は

学園の体育館にある倉庫で

怪しげな取り引き現場を目撃した

取り引きを見るのに夢中になっていた俺は背後から近づいてくる

もう一人の男

(本当は女)

に気づかなかった。

俺はその男に薬を飲まされ

目が覚めたら……

翔子の部屋にいた。

翔子とは

霧島翔子のことだ。

容姿端麗

頭脳明晰

でもちろんAクラスの

火の打ち所のない

女だが、

……

……

…

「雄二はどうしてあの場所にいたの？」

「いや、明久がいたからな、あいつ何してんのかなあって……」

「本当に？」

「本当だ。」

「他の女の写真に興味があったんじゃないの？」

「違うわ！」

俺、坂本雄二
の彼女だと

翔子の方は思っている。
という複雑な関係だ。

ちなみに

俺の見た取り引きとは
明久とムッツリーニの

秀吉のメイド服を着た写真の取り引きだ。

明久はお得意さんで、

よくムッツリーニから写真を買っている。

だからって麻醉薬飲ませることねえだろ
翔子のやつ…。

「ならこれからデート。」

「なんでだよ！」

「じゃあ、私がFクラスに試召戦争で買ったらデートする。」

「はあ〜何言ってる………」

ビリビリ…

翔子の手にはスタンガン。

というわけで

「「「ええ〜〜！」「」

「すまねえ何故かAクラスに宣戦布告された。」

「何でだよ！雄二！僕たちFクラスが勝てるわけないのに！」

「翔子にデートのためと脅されて」

「なんだあ、なら霧島さんとデートに行きなよ！」

「明久、ぶち殺すぞ。」

「……ごめん雄二」

「いいんだ。」

「そういうわけで

みんな！Aクラスと戦うことになった！なんとか作戦を考えるから
頑張ってくれ！」

「へえ〜い」

「ふ〜ん」

みんなさすがにAクラス相手だと乗り気になれない。

「現祐もしっかり作戦考えて……」

】
『ありがとう！現祐君。大好きよ。』

『俺も好きだよ』

『うん』

ちゅっ

『あっ、…んっ……はあっ、現祐くんっ、しゅき』
ちゅっちゅっ

】

「ぶはっ！」

「ムツツリーニ！」

「現祐！だから教室でギャルゲーはやめてよ、っ、っ、

ぶはっ！」

「無理だな、時間が足りないんだよ。」

「明久、ムツツリーニ、現祐

お前らやる気ないだろ？」

「俺はゲームで忙しいからな。しかもEクラスならいいが
Aクラスには無理だ。時間の無駄。」

「そっだよ！大体

雄二が霧島さんのデートを断るから」

「（コクコク）」

「私もAクラスはきついと思うわよ。」

「私がひとりいてもAクラスが相手では…」

「Aクラスは全員が姫路並の実力があるからのお。」

「くっ、このままじゃ俺のデートが確定しちまう」

「現祐。次は大丈夫」

「本当かムツツリーニ。しかも今かなりエロいシーンだぜ。
ほらっ」

【『あっ……現祐君。だめっ、……はあっ、
そこ気持ちいいっ……はあん！やあ』】

「ぶはっつっ！ー！」

やっぱり無理じゃないか。

FクラスはAクラスと戦う気すらなかった。

「こうなったら俺が……」
雄二は動きだした。

日本史。

一般的に暗記科目と呼ばれる科目である。

翔子は暗記力も抜群にいい。

しかし、

あいつは一度覚えたことは 必ず忘れない。

(昔俺は彼女に

大化の改新は625年(無事故)に起きたと教えた。)

しかし実際は

645年だ。

そこだけの差で勝つためには

小学生レベルのテストで翔子と勝負すればいい。

ふふっ、

俺って天才だな。

こうして

俺、坂本雄二の戦いは始まった。

~~~~~

そして終わった。

「霧島翔子97点。」

小学生レベルで満点を逃した。

なんだって!?

Aクラス代表が!

ありえない。

Aクラスの連中は騒いでいる。

「すごい!雄二のおかげで豪華な設備が手にはいるよ!」

「雄二疑って悪かったのお」

「反省」

「坂本雄二」………

……54点」

【Fクラスの卓袱台がみかん箱になった。】

「やっぱりね。雄二が霧島さんに勝てるわけないんだよ。」

「これでデートは決定だのお。」

「ゲームで忙しいんだから、無駄な戦争はやめてくれよ。」

坂本雄二は悲しみに打ちひしがれていた…。

「いつか…」

いつかAクラスに勝ってやる。みてるよ翔子。」

#### 第4話「鼻血とロマンと試合戦争!?!」(後書き)

バカテスト!

(問)

「祝詞」の読み方を答えなさい。

(姫路の解答)

のりと

正解です。高2では皆さん分かるでしょう。

(土屋の解答)

祝うべきこと

(詳細は現祐)

(現祐の解答)

11/10初音ミクprojectDIVAextend発売!

(詳細は明久)

(明久の解答)

詳細は不明

そこで その解答はないでしょう。

次回！

オタとテストと鬼教師！

これ テストにです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7551v/>

---

バカなオタクとテストと召喚獣

2011年11月8日02時04分発行